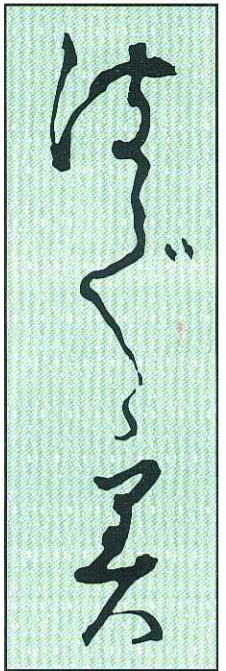


大分県PTA



発行所 大分市下郷宇長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 (097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 池内 晴一 印刷所 大分市金池町5丁目7番18号 大分出版印刷



平成19・20年度大分県PTA連合会指定研究発表会

地域を見つめ 未来へつなぐ



圧巻! 『鶴岡神子太鼓』 息の合った演奏



響け! 全校児童の元気一杯な歌声

鶴岡小PTA

田染小PTA

豊後高田市立田染小学校PTA (児童数49名、会員数34名)で「郷土を愛し、たくましく生きる田染っ子の育成」自然・地域・文化財とのふれあいを通して、研究主題を公開発表が行われた。

午前中の公開活動では、低学年・中学年・高学年に分かれ、それぞれテーマに沿った活動を紹介した。



カルタで郷土を身近に

午後からの研究発表では、文芸部役員による学年別実践活動報告があった。今年度は特に、人との関わりを持つことを重視。テーマはまず、それぞれの学級懇談会の時に話し合い、学年懇談会で決定し、実践。「親子・地域との活動により、あいさつも増え会話を心掛ける意識ができた」と成果を発表した。

多田主事は「親子一緒に学ぶ、というところに注目したのが、今日の成功の大きな原動力になったと感じている。子どもと一緒に親が学ぶ、親が動く。親同士、地域もつながる活動を実践している。ほかの単Pとのつながりが出来れば、さらにこの取り組みが広がっていくのではないかと指導講評した。

佐伯市立鶴岡小学校PTA (児童数581名、会員数428名)で、「子育て力を高めるPTA活動」をテーマに「子育て」を研究主題に、公開発表が行われた。

2年生では、親子クッキング。クラス毎に違うメニューを調理した。ホットケーキのクラスでは、みんなで作ったデコレーションケーキに、子どもたちは大喜び。保護者は「友だちと一緒に、家で作らないようなお菓子やフルーツを使ったデコレーションが出来て、すごく楽しそう」と話した。

友鶴会(鶴岡地区の女性高年齢者の会)の方々と、年間を通して、いも畑の畝作りから収穫祭、戦争時の話を聞くなど交流を重ねてきた。公開発表では、友鶴会の方が調理した芋づるをみんなで味わった。

5年生は、わらそうり作り。地域の方に教わりながら、慣れない手つきで一生涯懸命作っていた。「鼻緒をつける所が難しかった」と男子児童。地域の方は「縄ないから関わっているが、わらそうり作りにも、子どもの個性が出ておもしろい」と話した。

多田主事は「PTA活動の中に『つながり・結びつき』がしっかりと2年間で形成され、積極的に取り組んでいる。さらに、指定研が終わっても『広げていこう、つなげていこう』という意欲を持っているところが、本当に素晴らしい」と指導講評した。

午後からの研究発表では、各専門部が実践活動報告をした。年々児童数が減少している中で、家庭・学校・地域三者一体の活動を実践。「子どもたちと一緒に親が学ぶこと、ふるさとを再発見したり、地域、親子のつながりが深まった」と成果を発表した。

発表の後、活発な質疑応答が続いた。家庭・学校・地域のもとまり、特に地域の方の協力が高い関心が集まった。

交流重ねて深まる活動

佐伯市立鶴岡小学校PTA 11月15日

多田主事は「PTA活動の中に『つながり・結びつき』がしっかりと2年間で形成され、積極的に取り組んでいる。さらに、指定研が終わっても『広げていこう、つなげていこう』という意欲を持っているところが、本当に素晴らしい」と指導講評した。

午後からの研究発表では、各専門部が実践活動報告をした。年々児童数が減少している中で、家庭・学校・地域三者一体の活動を実践。「子どもたちと一緒に親が学ぶこと、ふるさとを再発見したり、地域、親子のつながりが深まった」と成果を発表した。

平成19・20年度の2年間にわたり県PTA指定研究に取り組んできた3校のPTAが、それぞれの公開発表を行った。子どもたちが活動の中心にいる、あたたかさの感じられる発表となった。今回の指導講評は、2校とも多田千栄県教育庁生涯学習課社会教育主事が行った。(大分市立城南中学校PTAの発表は、日程の関係で次号に掲載します)



ホットケーキがすてきに変身

贈られた。午後からの研究発表では、文芸部役員による学年別実践活動報告があった。今年度は特に、人との関わりを持つことを重視。テーマはまず、それぞれの学級懇談会の時に話し合い、学年懇談会で決定し、実践。「親子・地域との活動により、あいさつも増え会話を心掛ける意識ができた」と成果を発表した。

寸研心北

▼私たちは、チャレンジおいた団体とおいた大会優勝、トリニータナビスコカップ優勝に元氣と感動と自信をいただいた。この感激に至る迄の道程には、関係者選手の並々ならぬ苦勞、苦汁、苦心があったことと思う。いずれも優勝に向かって共にチャレンジしたからだ。私たちのPTAも「子どもを育てる」という共通の目標で取り組んでいる▼「トモニイコウ」と変わった書名にひかれて読んだ。著者は、サッカー名門校滝川第二高校の教師兼監督の黒田和生先生。その中から▼サッカーはハートでやるもの。世界のトップと戦うためには、強くたくましい「個性」の育成が不可欠である。スポーツ界でよく「心・技・体」の充実という。この格言は「技・体・心」でも、「体・技・心」でもなく、「心・技・体」の順番になっているところがミソだ。つまり、心(メンタル)の重要性を述べているわけだ▼本人が、しっかりと自分を見つめられることが第一だが、そのためには大人の助けが必要なのだ。しっかりと見ることが必要。情報や考え方を整理して指示すること、子どもが安心して信頼できる人間であること――これがコーチ、親も含めた大人の責任だと思ふ▼指導のモットーは、「怯まず、驕らず、洗練と」。真に強い将来性ある選手とは、技術に頼るのではなく、「心の力」が伴っている。「謙虚であれ、素直であれ」とも▼国体やトリニータに習って、「あきらめなければ夢は叶う」ことを知った、強い心をもった子どもを育てるために、その前に立つPやTとして今一度自分を見つめてみたものである。



# 誕生から60年 歴史を重ねて今とこれから

## 子どもが輝くPTA活動を目指して



要望書を提出する池内県P連会長

県教員採用試験・管理職登用試験の贈収贈送事件について、県P連では臨時理事会を開催して、本年7月14日に池内晴一県P連会長はじめ、県下理事20名で小矢文則県教育長に対し要望書を提出した。保護者・子どもたち等の疑心暗鬼の早期の払拭と信頼回復のための取り組みを要望。今後ともさまざまな機会をとらえ、状況に応じて県教委へ働きかけ、対応を図る。県P連ホームページインフォメーションに提出文書を掲載。

### 教育行政に関わる要望事項を提出

1948年に大分県PTA連合会を結成。郡市を繋ぐ要として、会員の研修や子どもの健全育成に関する様々な取り組みを行い、本年度60周年を迎えた。現在の活動内容を紹介します。

### PTA組織図



### 県P連基本方針

- 児童、生徒の健全育成と福祉の推進、並びに会員自らの生涯学習実現のため、研修及び実践活動を誠実に実行し、もって家庭教育力を高め、学校教育・地域や関係機関等との連携融合に努める。
- 財政の有効かつ適切な運用を心がけ、組織の充実と運営の円滑化を図るとともに、社会教育関係団体としての使命を果たすように努める。
- 社会の急激な変化への対応が効率的でしかも効果的に機能する連合体としての改善に努める。

### 活動内容

- 研究大会
  - ▼大分県PTA
    - 6地区(中津・別府・大分・佐伯・竹田・日田)と大分市・別府市が毎年持ち回りで研究大会を行う。平成12年度より1日日程での開催となった。
    - ▼九州ブロックPTA
      - 九州沖縄8県と福岡市・北九州市(計10)で持ち回り、毎年2日間開催。昨年度大分県で行われた。他に日本PTA全国研究大会も行われる。
  - 大分県PTA連合会指定研究発表会
    - 県北・大分市・県南の3区分より各1単位PTAを指定。

2年間の研究成果を公開発表することによりPTA活動の振興を図る。1956年から県教委と共催で開催している。

- 教育問題懇談会
  - 教育を取り巻く問題について県教委と共通理解を図るため、毎年1回実施。他に行政への要請行動も行う。
- 幹部研修会
  - 県P連役員(各郡市代表、母親部員、事務局員)の意識の高揚を図るため年1回開催。県内457単位PTAの会長が一堂に会し研修会を行う。
- 日中友好少年少女の翼
  - 心豊かな国際人育成を目指した日P主催の事業。本県より2男女各1名が参加する。
- 広報紙「はぐく美」
  - 単P広報紙の技術の向上などを支援するため実施。優秀作品を表彰する。
- 専門部会など
  - その他、会務運営に際しての会議や専門部会、特別委員会などがある。昨年ホームページを開設した。

本年度の全単位PTA会長研修会と併せて行う。

開催日 平成21年2月6日(金)

会場 大分市コンパルホール

参加者 単P会長、郡市P連役員、母親代表、事務局員等

内容 記念式典、パネルディスカッション、記念祝賀会、記念誌を作成し当日配付する。

4月、ちらが考えているうちに、自分が解決できていたり、驚かされると同時に、「中学生らしくなってきたなあ」と、頼もしさを感じます。

今、学級では、文化祭に向けて準備をしています。この北部中学校は今年度をもって統廃合を迎えますが、生徒たちには、これまでの経験や友だちを大切に、これから待つていくべきだと感じることがあります。生徒の中の誰かが悩んでいるとき、「どうしたら解決するだろう」「今、学級には何が必要だろう」と、この

杵築市立北部中学校 教諭 江藤 真知子

- ### 【要望書】
1. 逮捕・起訴を受けた内容以外の不正の構造、及び、かわった人数等、平成18・19年度に限らず、精査され、すべての情報の開示をお願いします。
  2. 保護者・子どもたち・現場教師・地域社会等々の疑心暗鬼の早期の払拭と、信頼回復のための取り組みについてお願いします。
  3. 教職に身を置く者は、今後公私ともに、その言動が注視されるに違いありません。不祥事は決して起こしてはならず、厳正な服務規律の下、教育委員会を含め自戒・自律の精神で、教育に取り組むことをお願いします。
  4. 平成20年度の採用試験は、大分県の教育の信頼回復のため、その処理は厳正におこなうことをお願いします。

### 「こころは命の星」推進事業

基金を生かし活性化を

10年ぶりの担当となった九州ブロックPTA研究大会が、昨年10月27・28日の両日、大分市と別府市の10会場で開催された。九州各県より約8500名の参加があり大成功で終えることができた。

記念行事のミュージカル「こころは命の星」制作の経費捻出や支出面での努力の結果、約692万円の余剰金を生み出すことができた。

この余剰金について、昨年度の第5回理事会で審議し、各郡市P連や単位PTAの

活性化に役立てて行こう」という結果を得た。そこで、「こころは命の星」基金をつくり、各郡市P連・各単位PTAの更なる活性化を目指すことにした。

事業を「こころは命の星」推進事業」と名付け、選考の結果決定された1郡市P連および1単位PTAに1事業につき10万円の補助金を出す。

事業内容は、基金にそった「いのち」に関する内容が含まれ、新規または既存の事業を膨らませたものとする。さらに、複数の事業で発展が望まれるものとする。また、要請があった場合は、簡単な活動報告をする。

基金は3年をもって終了する。平成22年度までに69事業に達しない場合は県P連運営資金に繰り入れる。

## おめでとうございます

### 平成20年度 優良PTA功労者表彰

<b>文部科学大臣表彰</b>	豊岡小学校PTA (竹田市)	藤田千克由 (前九P協会会長)
<b>日本PTA会長表彰</b>	国見中学校PTA (国東市)	春日町小学校PTA (大分市)
<b>九州ブロックPTA会長表彰</b>	永松 郁 (宇佐市)	内林 高徳 (大分市)
<b>感謝状</b>	権藤 和雄 (別府市)	工藤 隆宏 (佐伯市)
	池内 晴一 (竹田市)	渡邊 久洋 (豊後大野)
	フジノハート (日田市)	吉武 勝広 (玖珠郡)
	神 祐子 (大分市)	

点めつだ 一度止まって 次の青



# 子育ての原点は 子どもを見つめることから



レクリエーションで心のふれ合い

情報化社会の今、子育ても多様な価値観が生まれている。子どもをとりまく環境が急激に変化し、子どもらしさが見えにくくなっているが、従来の子育てで観では難しいのだろうか。子どもへの接し方が問われている現状の中、今回は一人ひとりの子どもを見つめた家庭での取り組みを追った。

福岡の西区で起きた事件をはじめ、昨今、親と子をめぐ

## 迷いも 子育てのうち

小3の母親は「最近では、多くの場所で、当たり前のように子どもが携帯用のゲームをする姿を目にする。私が子どもの頃は、外に出れば元気に駆け回り、身体を使い、自然を楽しみながら遊んでいた。息子にも、そんな風にならなりたい」と思っていたのに、「ほ

所などのルールを作ることにし、条件付で息子にゲームを与えることにした。けれど、何度かルールを破るので、再度約束を守るための大切さを話し合った。最近では、友だちの話をよくするようにになり、表情も明るくなってきた。今、ゲームを通して、我慢をすることの大切さも学んでいるようだが、ゲームが与える影響も心配だ」と語った。



守りたい子どもの笑顔

中でも、子どもの心に寄り添う様に心がけている」と話す。ゲームや携帯電話などの親世代にはあまり馴染みのなかった物が、子どもの世界に深く入り込んでいく一方、私たち親は的確に判断が出来ていないのではないかと。本来子どもは、学校での出来事やいま関心のあることの話をしたがる。その時の表情はパッと明るくなり、目は輝く。集中し勉強をすることも大事だが、雑談(コミュニケーション)の中には、子どものありのままの姿や求めているものが見えてくる。

また、小2女子の母親は「父親の帰宅が遅く、お互いの休日も合わない。子どもと食事どころか会話も少ないので、父親と娘に交換日記をしてみたらと勧めた。娘は朝、父からの返事をびよびよんと跳ねて喜び、学校や家での出来事を鼻歌まじりに書いていく。父親も、うれしそうに日記に目を通す。忙しい日々の



私が子ども頃、多くの家庭で特に考えることもなく、よく遊び、よく眠る、よく生活を送っていた。しかし、時間に追われる現代では、意識しないとできない生活習慣になった。特に、「遊ぶ」の部分は難問である。7時30分に登校し、17時頃帰宅する次女。遊び盛り期の小学5年生だが、帰宅後、宿題・お風呂・夕飯・習い事と、あつと言つ間に1日が終わる。「疲れた」の言葉に充実感はない。土日も、家族それぞれ

## 「よく食べ、よく遊び、よく眠る」

足気な笑顔に大切な時間を感じた。

大分市立南大分小学校 PTA副会長 向 洋子

## 子育ては 親育ち

東九州短期大学 教授 松田 順子



国も今の日本の若者状況を憂えてか平成18年に教育基本法の改正を行いました。この法令の中にみられる、めざす人間像をまず読んでみることで、子育ての目標がしっかり詰まっています。「法令第一章、第二条、(1)幅広い知識と教養を身につけ真理を求め、態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。(2)正義と責任、男女の平等、自然の敬愛と協力を重んじる。(3)生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。第三条は、国民一人一人が、自己の人格を磨き豊かな人生を送ることができるよう。」など、日本の教育の根柢が脈々と謳われているのです。私自身の子育て期を思い浮かべてみますと、そ

れぞれの時期に次々と新たな悩みはありました。「終りなき戦いかな」と、思いながらも、子どもとともに過せる自分の家族づくりも同時に楽しんできました。夏には必ず、子どもが中学生になるまで約十年余りを大自然の中でキャンプをし原始生活体験をしました。4人で草原に寝転び夜空の星を見ながら、星に纏わる話をしたり、虫の音に声を潜めて、虫あてっこをし

たり、薪を集めて飯ごう炊飯と、又、季節の行事は祖父母も混じえて古からの伝統行事を楽しむ宿題を一緒にしたりと、小学生時代は、親の出番が多い時です。中学時代に健全な心と身体育ちのため、スポーツや多くの友との親交、教師との談笑を経験し、高校時代で自分探しをしっかりでき、将来の自分像がえがけることになるわけです。充実感の中で「生きる力」が生

まれてきます。最後に子育てで大切にしていただきたいお願いがあります。

## 子どもに 寄りそう工夫

①要求を退けるには、出まかせを言わず条件を出す。

②命令形より疑問形で習慣付ける。

③親戚つき合いは大切に。

④子どもが何か言いはじめたら先回りしないです。

⑤子どもが何か言いはじめたら先回りしないです。

⑥「失敗してもいい」と話をし、何事にも意欲が持てるように。

⑦考えて事を行なうようしむける。

⑧忘れ物があった時も時には知らん顔をし、自らこうすれば完璧というマニュアルはありません。自分が産んだ、自分だけの宝物です。自分流で試行しながら、反省をくりかえし、育てていきましょ

う。子育ては実は子どもも育つけれど、親育ち作業なのです。

